（大正十二年十一月八日第三種郵便物認可）　昭和十三年十一月二十九日　常磐毎日新聞　［火曜日］　第四千三百六十九號　［一］

常磐毎日新聞

日刊

十一月二十八日夕刊

定價 一部金貳錢 一ヶ月金五拾錢 郵稅五厘
廣告料 普通一行五拾錢 場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 坂本忠治
平市長橋町三五
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社
（振替口座）東京 四〇二二〇番

印刷の御用は
常磐毎日印刷株式會社へ
電話六三〇番

防空訓練大成功

實戰さながら—

今暁掉尾の一振!!

霜降る地上の警戒嚴

防空群の活躍目覺し

緊張裡に終了

平市に於ける第二次防空演習は廿六、七の兩日に亘り夜は急激に氣溫が低下したが水のやうに澄んだ大空の下に家庭防空群、防護團、消防組の三者一體になつて士氣益々旺盛、空襲時下

敵機の 襲來に監視の眼を瞪るなど實戰さながらの目覺しい活躍振りで敵機を假裝する狀況現示班がサイレンを鳴り響かせて八方に飛び各區に數箇の燒夷彈や爆彈を投下すれば各戸

警戒の 防火群の婦人達はもんぺ姿も勇しく蹶起の活動を演じ防火班及び消防組も爆彈投下地帶一圓に亘つて消火救援の協力大活躍、殊に昨日午前十時半の空襲警報

發令に 際しては長橋町、五丁目、平窪の三ヶ所に於て發煙筒に依る物凄い燒夷彈の爆發下に華々しい防護演習が行はれ多大の成果を納め徹夜の警戒裡に今暁五時半、

市民の 眠りを破つて全市のサイレン、警鐘が一齊に空襲を急報すれば緊張をゆるめぬ防空群や、防火班、消防組は『スワ敵機よ』と霜降る地上の警戒に當り各區現示班が雨と降らす

投下彈 を目指して戸外に備付けた水槽の薄氷を破つて健闘、豫想以上の好成績を示し午前八時第二次訓練の幕を閉ぢ午後一時からは群長以上の各係員が平第一小學校庭の講評に臨んだ

消火栓で活躍中

永年勤續 消防手殉職す

街の消防界の花形!

あゝ辻金太郎君無し

防空演習に名譽の殉職消防手——平市内紺屋町消防手大工職辻金太郎（五五）君は昨二十七日夜九時五十分頃同町内の消火栓附近で防空演習に參加活躍中狹心症を起し死亡された

同氏は日露戰役の勇士で勳八等を賜つてをり消防手生活二十六年といふ街の消防界の花形であつた、長男の久治郎君は目下漢口の第一線にたつて奮戰してゐるだけに各方面から同情されてゐる

平署で早速殉職として縣に手續をとることになつた

祖母の死を秘し

藤田巡査涙の奮闘

防空訓練に咲いた 警官美談

防空訓練に咲いた警官美談——湯本町上町駐在藤田新吉巡査は防空訓練が始まるとゝもに我が家を顧みず連日連夜活動を續けてゐるうち郷里から祖母が病死した旨の電報に接したが

〃この場合私事などかまつてゐる時ではない〃

とて誰にも知らせず喪を秘して奮闘してゐたこと今二十八日朝判明、これを知つた本田署長はいたく感激、これこそ「時局下に於ける警官の龜鑑」だと賞揚すると共にお悔みの言葉を述べ早速郷里へ向はせたといふ

自作農の維持費

本郡貸付額決定

縣自作農創設維持費金貸付審議會は二十六日縣農會樓上で開かれたが石城郡へは一萬四千九百圓を貸付られることになつた此内譯は左の如くである

△渡邊村九、二〇〇
△磐崎村五、二〇〇
△大野村五〇〇

錦村祈願祭

錦村 本年度入營兵の武運長久祈願祭は二十五日郷社熊野神社に執行された

平市校長會

平市内各小學校長會は今二十八日午前十時から第一校會議室に開き來る十二月二、三の兩日市公會堂に開かれる縣下市立小學校長會への提出協議題其他附議した

江名町會

江名町では二十六日町會を開き小學校に於ける奉安庫改築の件、漁業稅賦課額決定の件、其他附議した

植田署管内

運轉手協會

植田署ではこの程管内の自動車運轉手を網羅し「運轉手協會」を結成したがこれが發會式は十二月二十日擧行される

水產罐詰

四倉で指導

水產加工產業組合では二十七八の兩日四倉町同組合事務所に農林省から田島囑託、縣から岩瀨水產課長、二宮副業主事を招き水產品罐詰指導會を開いた

年賀狀を取扱ふ方針に基き準備

來月十九日から開始

平郵便局では戰捷二年を迎へる新年を奉祝する年賀郵便の差出しについて遞信局の方針指示を待つてゐたがこの程遞信省の方針は例年の如く十二月十九日より特別取扱ひを行ふ旨指示されたので早速この準備に着手した

駒耀市の取引成績

石城產馬組合では今春來各所で行はれた本年度駒耀市の成績を調査中であつたがこの程終了した、それによると總取引數は七百四十七頭、この價額十一萬四千六百七十五円で縣下では第五位の成績である

暴れ行者

收容さる

既報——門付けをことはられて憤慨泥醉の上暴れ込んだ前科一犯の法華行者——目下住居不定信夫郡飯坂町生れ田中吉江（四八）は其後平檢事局で富澤檢事の取調べを受けてゐたが今二十八日脅迫罪で起訴刑務所に收容された、公判は近く淺野判事係りの下に開廷される

寄書

感じたことひとつふたつ

オウキ　ジユン

…（一）…

○宣傳とゆうことと日本人ぐらい宣傳のへたな國民もあるまい。コンドの支那事變でも宣傳戰ではイツデも支那に負けている。ちかごろ、宣傳省のモンダイがソウトウ大きくあらわれてきたが、現在の陸軍省、海軍省あたりのそれ〴〵の宣傳機關をモット整備し、充實させるとヒツヨウが充分ある。宣傳なんか負けたツてよい、と人は云う。シカシ、現實モンダイにぶッつかると、そうはゆかないのだ。まあ大低の人は、宣傳、と云うと、何か惡く解釋しがちであるが、モトモト、此の宣傳と云うコトバは、タダ、のべつたえる、と云ふ字であッて決して惡い意味は少しもない。ソレは別に惡宣傳と云うコトバのあることを見てもワカル。それが何故、惡い意味にトラレルか、と云うと、「アイツは宣傳屋だからね」とか「又、宣傳か」とか、自分の利益や自漫のためにのみ、ほらをつくから起るのである。スナワチ、自分の本當の腹をワツテ相手に見せない、何かワダカマリがあるからである。宣傳には惡宣傳とか、故意の宣傳をノゾイテは決して私心があッてはならない少しでも社會のため國家のためと云う理想、目的がなければならない。宣傳と云うことは、どうして起ツたか、と云ふと、例を卵にとると、イナカの百姓家で、ニワトリをかつて、卵や肉がタクサンとれる。家の者がたべてもノコる。そうなると、ノコツタ卵をすてることはモツタエないから、賣ることにキメ「卵賣る」とか「卵有り」とかタテフダを出す。コレが廣告宣傳のハジマリである。トコロが、だん〳〵人がふえてくるが、どうじに「卵を賣る人」も增えてきて、シヤイに賣る人の方が多くなると、ドウなるか。人情として當然、自分の卵をハヤク片づけたくなる。そうなれば賣る人お互いの間に競爭がおき、頭のきいた人は「生ミタテの卵あり」とか「新鮮な卵あります」とかタテフダを書きなおす。この方がよく賣れるわけである。宣傳效果かキイタわけである。宣傳技術、やりかたに差か生じてくることになる。此處に人間の利慾が入ツてイワユル宣傳（利己的な感じのする）と云うことが出てくるのである。

宣傳がハジマツたときは決して計畫的ではなかッた。スチースなことがらにすぎなかつた犬の子がワンワンと云ツて泣いているのは、母親に自分のアリカを知らせるか、ハラのへつているのを知らせると云うような計畫的なのではない。ハラがへつてきたので何んとなくカナシクなつて自然に泣いたのであつて、計畫的なツクリナミダではない。宣傳はイツワリを知らせるのではない。ホントウのことを相手がハツキリのみこめるように知らせる役目なのだ。もつとも積極的であつてヨイソコに宣傳の本質がある

（續く）

小名濱支局通信

戰國の母性を尋ねて（三）

▽代表的母性力を持つ小野ねいさん△

ねいさんの戰國の母性としてどんな健氣な心構へであるかを知るのも他に對する手本とも考へて其邁居に訪ねお話しを聞くと、ねいさんは至極眞面目の面持ちでこう語るのであつた、男が三人女が三人で何れも頑健であつた爲めにお國のために爲る身体であると亡父は此上もなく喜んで居つたのでした、自分共の骨折をよそに只子供達の成長を樂しんで居つたのでしたが、大義は（長男）適齡で合格して入營するまでは亡夫も元氣でしたが昇の海軍兵團に這入る時は病床に居つたので、よもや自分で死亡するとは考へないで、其出發を病床で送つたのでしたが、昇は一日、亡夫は二月に死にましたので大義も現役中殊には滿洲事變に參加して居つたなどの混雜で寢る目も寢ずに苦勞をした樣な譯けです

大義が除隊して今の嫁を迎へて四年、家庭はやつと安心した時でしたから一郎は適齡から一年前に体格もよいので何れは軍人だからと遂に本人も志願する樣になつたのですが日支の關係が亦こうならうとは思ひませんでした所、即ち風雲急を告げて大義は最初の動員で征途に上ると云ふ三男一郎も入營する樣になつた時の姿の感慨は無量の沈みました、森屋一郎は二男であり三男でもあるから、御國の爲めに一身を獻ぐる事は當然でありますが、長男だけはと愚痴をこぼしたくなりますが又能く考へて見ますと子供が何人あつてゝ一人の軍人さへも出ない家もありますが、男三人殘らず陛下の股肱となつて戰の庭に働ける事の出來る子供を持つた姿は、何となく氣持が淸々する樣な氣がします、殊には大義にしても、嫁との間に英夫（三）と云ふ妾には孫もありますから家業は絶えません、出征する以上は憎い蔣介石の指揮する敵軍を粉碎して凱歌を擧げさせたいと念願して居ります。

留守宅は嫁とてる子（一七）とみのる（一五）と娘子軍に出せる頑健な者もありますから之等を指揮して出來得るだけ皆樣の御厄介にならないで留守番の本分を盡したいとそれのみ苦勞して居ります。と元氣を見せて居る、五十前後の未亡人が娘子軍を率へて銃後を預る留守を護る共健氣さは見るからに戰國の母性力の充實しあるを感知するに難くない、談話中にも商賣に對する指揮を忘れずに娘子軍に向つての命令は堂に入つたもので茲にも　明治天皇の『國を思ふ』の御趣旨が躍如として蒼生の賤家にまで行き渡つて居る事に領かれる、かくてこそ聖軍萬里の戰場に後顧の憂をなからしめ祖國の爲めに、死は鴻毛の輕きに置き忠勇義烈の働きが千歳不朽の偉勳を樹てしむるものはこれ偏にこれ等ねいさん方の家庭に育む母性力の働きに依るものであるとの深き感慨からその健康を祈つて辭去したのであつた

（此項完）

二人乘り自轉車

トラックと衝突

平市内研町折笠磯吉さんの長男平第一校高等一年生宗治君（一四）同町伴武吉さんの同尋常四年生長男一郎君（一一）の兩名は二十七日午前十一時頃一臺の自轉車に二人で乘り二丁目の谷口前通りを通行中折柄疾走して來た三九二運輸部のトラックに衝突一郎君はたいしたことがなかつたが宗治君は顏面から足部に重傷を負ひ目下田町の安齋病院に入院加療中だがなか〳〵の重傷である

街は債券景氣に急角度の回轉!

俸給生活者の懷中に

聖戰遂行の財源生る

國策債券として師走の俸給生活の懷中をゆすぶつた第六、第七回貯蓄債券は今や家庭における人氣の焦點に跳び上つた、政府の命令で平市内の各官公衙、會社、銀行等は貯蓄債券を以てボーナスに替へる鼻息がうかゞはれるが聖戰遂行の大目的を貫徹し戰時財政の圓滑な運行を圖る時債券はこうして家庭債權ともみられる政府の御達しになる〃官制ボーナス支給率〃は

△賞與百圓以上任意額（最低五圓） △百圓以上二百五十圓以下一割相當額以上 △二百五十圓以上五百圓以下一割五分以上 △五百円以下一割五分以上 △五百圓以上五千以下二割以上 △千円以上五千圓以下三割以上 △五千圓以上四割以上

が賞上げの標準で今や年末を控へ本年度掉尾の幸運兒（?）貯蓄債券は我先にと飛ぶやうに賣れることを豫約され師走を渦卷くボーナス景氣も吹飛んでおゝ街は債券景氣に回轉することであらう

特別補給金

平市へ一萬三千圓

郡内へも夫々

十三年度特別補給金は二十六日縣下各市町村に交付されたが平市は一萬三千五百七十二圓であるこれは一般補給金交付の際當時は市制施行前の財政を基本としたため極めて少額だつたのでこれが補充の意味で交付されたものである尚石城郡へは一萬四千三百五十四圓交付された

街の要所々々に納稅宣傳の淸書

市内の各小學校が

明日旗行列を催す

平市内各小學校では既報の如く今二十八日からの納稅デーに際し「納稅思想の普及は先づ兒童から……」と明二十九日旗行列を催す外兒童の書方を各家庭の神棚に貼らせるとゝもに優秀なものは街の要所々々に掲示道往く一般の人々に宣傳これが趣旨を普及することになつたが各學年の課題は左の如くである

△一年—ナフゼイ△二年—なふぜい△三年—怠るな納稅△四年—納稅報國△五年—租稅完納國の礎△六年以上—擧つて完納銃後の護り

ラヂオ

JOHK

今晩の部

▼後六、〇〇 連續童話劇（大阪より）「日本人オイン」BK子供會
▼後八、〇〇 實話に聞く「梅村中尉陣歿をめぐりて」
▼後八、五〇 尺八「轉菅垣」
▼後九、〇〇 連續ラヂオドラマ「山岡鐵舟」
▼後九、四〇 時報ニユース

明日の部

▼前一〇、二〇 家庭座談「炬燵とストーブ」渡邊
▼後〇、〇五 新日本音樂「消和調」外 池田靜山
▼後六、〇〇 ハーニカ獨奏と合奏
▼後六、二五 講演「働く人の健康法」醫博鯉沼氏
▼後七、四〇 講演「事變と農村」法博 河田嗣郎
▼後八、〇〇 吹奏樂と喇叭號樂「民謠曲集より」外 東京石川島造船所自彊吹奏樂團
▼後八、五〇 連續ラヂオドラマ「山岡鐵舟」前進座

當組消防手辻金太郎殿今次防空訓練に協力勤務中突然狹心症を起し急死仕り候に付此段謹告候

追て送葬の儀は明二十九日午後一時自宅出棺性源寺に於て准消防葬により相營み可申候

昭和十三年十一月二十八日

平消防組

愛憎二重笠

吉川延作　瀧秋方畫

……（128）……

運命 二

大助に、役人が三朝に、貴公事件の御[illegible]中かときくのを

「左樣」

と、諾いた。

「して、そのお怪我は」

「[illegible]泥棒の浪人に襲はれたのでござる」

と、今度は三朝がキッパリと[illegible]へた。

「それは誠にお氣の毒千萬!」

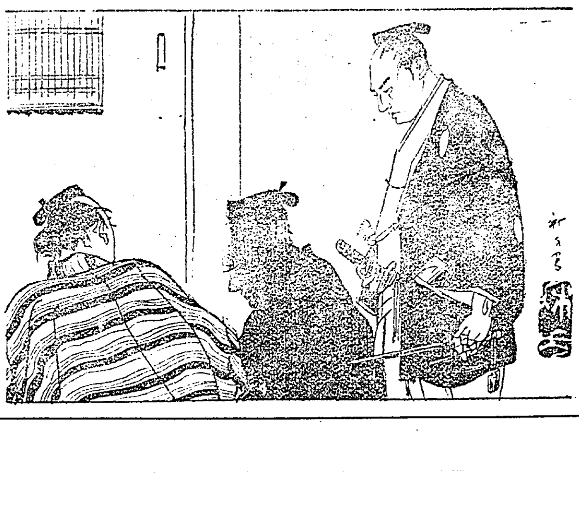
「いや、なに……」

三朝は、やゝはにかんで口を[illegible]んだ。

「相手の名は……住所は?」

「それは存じません」

「知らない人間から襲撃されると云ふことも、少々おかしい」



「何方にも……」

「心當りはありませんか」

「さア、拙者を[illegible]浪人と睨んだ其の[illegible]が解りません」

と、三朝は[illegible]を明かにせない。

「[illegible]の行方とか」

役人の目には、冷やかな[illegible]消えて、味方を得たとの喜びが[illegible]に[illegible]できたのである。

「左樣、いさゝか[illegible]に憤慨して世の[illegible]、[illegible]を[illegible]とした[illegible]でござらう」

「なるほど、それは、誠にたのもしい」

と、役人達は[illegible]にも、すつかり氣持をよくして、無理に大助を奉行所まで伴れて行かうとはしないのである。

「それで拙者は逃げ[illegible]れば[illegible]して致さぬ、御用があれば、何りとも御役に立ちませう。ですから、今夜は[illegible]することをお許し願ひませう」

と、大助がいふのを役人は見合はせて一寸[illegible]の色を見せた。

「決して、逃げかくれはいたさぬと申されたな」

と、役人は、大助と三朝の顏を見かへつた。

「いかにも、我々は[illegible]は申さぬ」

と、三朝が、力のある[illegible]を[illegible]つた。

「それで、安心いたした。然らば[illegible]我々は[illegible]きとるが、すぐ用事があれば出て來ませう」

「ハア、何時なりとも」

大助は大きくうなづく、さうして、

「お役人との、一體、おしんと申す女が盜賊であると云ふ證據はあがつてゐるのですか」

と、今一度[illegible]のために、大助は訊ねて見た。

「勿論のこと、あの女の持つてゐた金が、盜まれた御用金……刻印がちやんと打つてある」

「なるほど……それは仕方がないが、私達の見解では、賊は必ず他にあるに違ひない、要するに、賊の金をおしんが拾つたのに違ひありません」

「或はさうかも知れぬ」

「拾つた金で、他人の命を救つた場合、矢張り盜賊の汚名を負はねばなりませんか」

「さうだなア、一寸困つた問題だ」

役人は當惑する。

「實は盜賊が、おしんを脅迫してゐる所を、私は今夜見たのです」

大助は、やむを得ず、しやべつてしまつた。

役人の目が、再び異樣な光を發して、一たん、この家を出かけた足を引きもどしたのであつた。

「何處で見たと仰しやる」

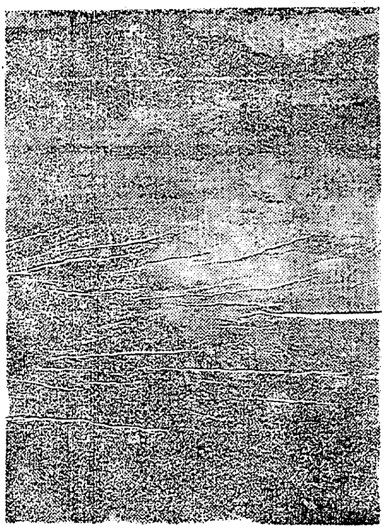
「鶴川の床でござつた」

◆うさぎを早く大きくする秘訣　子うさぎを早く大きくするには、飼料にごく僅かの塩を入れてやることです。これは食物のこなれをよくして十分に滋養分がとれるからです。野菜のたべ物ばかりやつたうさぎよりも、飼料育ちの早いことは、試験によつて證明されてゐます

子供たちは　なぜ風の子か？

この理屈がお判りになつたら　餘り勞り過ぬ様に

子供は風の子といひます、身を切られるやうな風、寒くてつく寒さに縮つぺ[illegible]ながらも戸外でとまはつてゐて容易に家には入らうとしません。では子供は大人よりも寒さと云ふものに對してつよいのでせうか？



子供の特徴といふのは戸外に出てひまはることですが、それは心臓にたいして惡い影響を受けてゐないといふ證據でもあります。して風一病氣になつた場合も大人とちがつた子供獨特のある抵抗を持つてゐると云ふことも考へられます

回復力が強い

第一に、病氣になつてもその回復力が非常にはやい、たとへば子供の感冒は續ければ三日位で、なほりますが青年では四日間、壯年では五日間、初老になると一週間かゝるとされてをります。即ちとは回復力の大であること、再生能力の強いことをいふのであります

新陳代謝が大

第二に生理的に見ると、新陳代謝熱が子供は大人より大です。大人はせいぜい現状を維持する程度ですが子供は常に成長せんとする力を持つてゐます

順應性が大い

第三　順應性が子供は大です。子供は戸外にゐても決して靜止してゐません、必ず運動してをります、つまりそのために熱を發散し、ある程度にからだを常に温めることが出來してゐるのです。體表面積は體重に對しておとなより大ですしかし全體としてからだが小さいのですから風を受けることはおとなよりずつと少いわけです

活動力がわう盛

第四に精神的に見ると、子供は自分のからだに對して考へることがない、寒からうとか、そんな處にゐては暖からうとか決して考へません。又出來事に熱中して寒れといふものを持ちません　活動力が旺盛なのです

以上のやうな生理的、精神的さまざまな點から子どもを見るなら、子どもは安心して風の子にしておいてよいのです、つめたからう、寒からうとは無用の親愛です、なやみに厚着をさせたり、家にとぢ込めておくことのないやうに寒さの中で、十分心身をきたへていただきたいとおもひます（醫大教授浦本博士）

シワが出來ぬ

洋服のしまひ方

合服やモーニング、オーバ等の禮服をしまふ時は、必ずゆつたりした箱にハラフイン紙のやうなものをしき、肩と袖つけの丸みをつぶさぬやうに紙をつめて正しくたゝんで入れ、襟の折返しの下にもうすく紙をのばして入れます。ナフタリンはかならず日本紙につゝんでつかふことです

○

一大きな箱に何組かかさねて入れる方の服はしまふ際に餘程氣をつけないと急にだして着ようとしたときに皺がよれかしくて外出出來ないほど、皺だらけで、肩や襟の線がくずれてゐることがあります。殊に式服着ならいざ知らず、臭氣のある方なら二重に恥をかゝねばなりません

○

と、どうしてもおもみで不自然な皺がつきますから、一着一着を離すするのが上手な保存法です

姿勢が悪いと　こんな故障が起る

體操と運動をして下さい

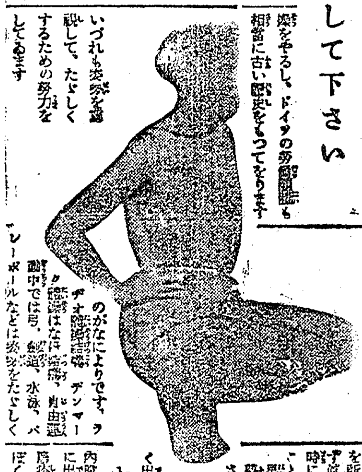
正しい姿勢は形の上からばかり要求されてゐるのではありません、骨格、内臓の保持方によき健康をへてくれるからです

別に姿勢はなくとも背がまがつてゐることゝ上體が右によつてゐるとかの姿勢の人は筋肉の平衡がかけてゐるため、その部分がこつそのため健康状態にも正常をかくやうになるのです

知らず識らずに[illegible]背柱骨格を壓迫し胃腸の働きをわるくし内臓や血液循環のたゞしい機能を害しなほ近視の原因などにもなります

▼姿勢がわるくなると、これを直すにはなかなか根氣と努力が要るものです、ですから常に正しい姿勢であることに心がけなければいけません、歐米では兒童の姿勢を重大視しげん格なたゞしい姿勢教育をしてゐます、最近チエッコ、ー各國[illegible]體操をやるし、ドイツの勞働[illegible]も相當に古い歴史をもつてをります

いづれも姿勢を重視して、たゞしくするための努力をしてゐます



す、人があります、文弱を救ふ[illegible]讀書をする婦人などのやうな前かゞめになつて胸、腹を壓迫する職業の人たちです、たゞしい姿勢を保つためにほ、常に胸と腹の運動をおこたらぬやうにするのがなによりです、ラヂオ體操、デンマーク體操はなほ結構、また運動中では弓、劍道、水泳、バレーボールなどは姿勢をたゞしく

主婦のメモ

◆衛生　寒さがくだり室内が冷えて來ますから赤ちやんの保温が大切です、殊に早産とか虚弱な乳兒は一時の油斷を戒します

◆衣服　衣服の[illegible]は[illegible]一升めえりはリスリン四五滴とさくまんせ、八滴、それに水一杯を加へして[illegible]にいれびつしよりぬれる程[illegible]いて日かげに干すときれいになります

◆鳥もつ燒　鳥もつを水につけ血抜きをして串にさし、醤油とみりんとあはせて七分に煮つめたたれを塗りみそ、砂糖、酒、ゆずをくはへてねり、このたれをもつて二三度つけながら燒きさらにみそをぬり再び火にかけ器にもつてだします

食べ過ぎの祟り

下痢に罹つた時の手當

秋になつてから食慾が増進したせゐか、昨今喰ひすぎで下痢にかゝつてゐる人が多く、この際下痢の手當はどうするか―

×

まづ下痢の原因ですが

（一）腸そのものに故障があつて機械的に例へば恐怖[illegible]などで腸の運動がたかまり、内容物がはやくおくられて下痢する場合

（二）尿毒症などでは血液の中にある毒物が[illegible]して腸管に影響をおよぼす場合

（三）内分泌腺の障碍たとへば[illegible]腺の機能[illegible]の場合があり普通の時は

（四）消化不良等（食すぎから來るもの）にて内容物が腸を刺激して下痢をおこすことは最も多い　その他續發的の病氣乃至は[illegible]などによります

（五）特殊の細菌たとへば赤痢、コレラ、腸チフス、腸結核等の場合

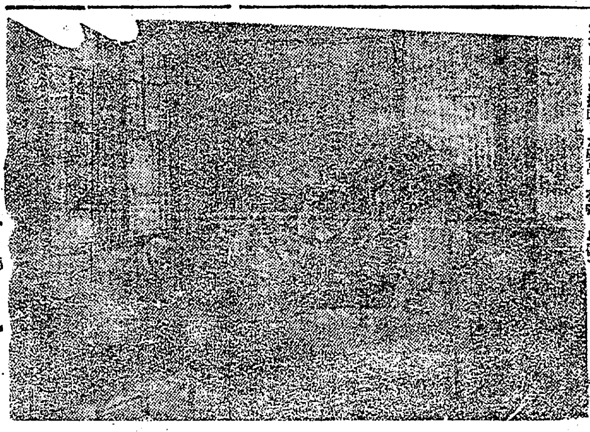
（六）口から攝取した藥品、有毒[illegible]

（七）人によつては或る一定の食物にのみ過敏症で下痢を起す場合

（八）その他[illegible]、[illegible]等による時もあります

一　腸下痢がおこつたなら　まづ原因をはかり、痛みの有無、その部位、便の性状、下痢の回數および量に注意して醫師の診察を受けることがたいせつです。食物の不適當その他で内容物をはやく出さねばならぬ時は、下劑によつて躊躇なく排泄を要しますが病氣によつては素人療法の下劑や、下痢止めがかへつて危險をもたらす事がありますから十分注意すべきです

食　事は流動食、重湯、くず湯、牛乳（平生飲用して何ともない人なら差支なし）とし、口當りは番茶のやうなものを攝ることです。かうして便の状態を見てから徐々に軟かゆ、全かゆとかへていくことが安全です（醫博平松[illegible]氏談）



ハヤリ始めた　しやう紅熱

その症状と豫防法

せう紅熱は寒くなると増える傳染病で、[illegible]昨年一日に三十名近くの患者が出てをり、年によつて異なるが大體十一月に一番多い

死亡率は三パーセント乃至五パーセントであるが法定傳染病であり、この際その症状と豫防法はどうするか―

「せう紅熱の病原菌はまだハツキりしてゐないが、近年日本ばかりでなく各國とも患者が多くなる傾向です。この病氣は四五歳の子供が一番罹りやすく

乳兒や老人は

少いものですが、近年は患者が多くなつたせゐか大人にも時々見られます。症状は風引のやうに始めは高熱が出て頭痛や惡寒を感じ、熱は三十九度四十度といふ時もあります。一般に子供は咽喉の痛みを訴へないものですが、咽喉は必ず赤くただれてゐるものです。時には發病前一兩日に嘔吐を催すこともあります

早ければ熱の出たその日の中に、普通は二日目くらゐから紅い小さな發疹が出ます

この發疹は顔には餘りはつきり出ないので、氣づかない場合もありますが、身體にはよく出ます

わきの下とか

内股には明かに出ます。顔に出ますとこの病氣の特徴として鼻の下と口の周圍が白つぽくなるものです。この發疹は[illegible]り、顔とかでん部から皮がむけます

皮が全身的にむけ切つたところで全治はするのですが、この間に中耳炎を起したり、淋巴腺を化膿せしめたりする危險があります

また、發病後二十日前後には往々腎臓炎をおこし、急に小便が少くなり足などにむくみがきて尿毒症を起し死亡することもあるので、發病後も相當期間安靜にする必要があります

豫防としては

法定傳染病であり、これは病原菌が確定しないとはいへ、大體[illegible]症状のためだらうと、この[illegible]によつて豫防液をつくり注射する法で、最近盛んに利用され相當の効果をあげてゐます。このほか一般[illegible]皮膚を丈夫にすることとにつと明礬オキシフル等のうがひをし人ごみではマスクをかけること

それにこの病氣は特に[illegible]ますから、すこし具合のわるい時など餘り[illegible]しないで一般醫師に診せるがよく萬一これに罹つた場合は法定傳染病ですから隔離しなければならず、隔離の期間は一定してゐないが五、六週間位が普通です（駒込病院[illegible]）

祖國（そこく）

堀　健吉作、畠野圭三畫

…第七回…

直　感（一）

失敗した男、家出した女、職業を失つた父、住込み先を飛出してゐる山出しの陽やけした年若な女、惑禍をうけた不良少年、家にゐつかぬ落ちぶれ者の惡漢の息子、―四十過ぎの獨身者、身分を隱して漁色する老紳士―こんな人たちの爲にとつては、あり合せの紙幣二三枚で、各自の求める快樂を容易に得られる絶好の場所なのだ。

腹が空けばおでん屋もあるし、安食堂もある。淋しかつたら十錢で、ちつと沁こむバアもあるのだ、女にみつかれ、悲しみ喘ぐ心にとつては何よりの慰安所だ。うらぶれ者心のなぐさまるところ、こゝろの故郷だ。

この群衆の中に一と度身を投げこめば、もはやその身分を問ふ人はない。

此處こそは落伍者たちの天下だ。人の多い沙漠だ。恥を負つた人たちが、はじめて恥を忘れる場所だ。

よしその荒み疲れたこゝろが、ふたゝび立ち上がることは出來なくとも、人々はこの淺草の醉ふ空氣に感謝しながら朽ち果てたい希望を持つだらう。

安つぽいくせに、變にきらびやかな服装をつけた女たち。賑やかな雜踏のくせに妙に淋しい盛り場、群衆の中にゐながら、誰にも亂されることなく完全な孤獨を味はへる淺草、こゝこそは都會に生れた不可思議にして妖しい天國なのだ。

八木氏はいつもの通り、一錢蒸汽に乗つて隅田川を吾妻橋へと下つた。ポンポン蒸汽に搖られて淺草へゆくのが彼のくせだつた。汽船會社から八木氏にパスを出してゐるのが、その理由の一つでもあり、また自動車や電車のきしめく喧騒の響もなく、ふんわりと濁い水の上に浮つてゐる。その澱みのある滑らかな運河の水面は彼にとつての快樂だつた。それに汚んだ運河の上で、果てしもなく打ち續く街岸の家々の屋根や白壁を見て行くのは樂しかつた。

錦ヶ淵の工場の窓からは、少女たちが白いハンカチをふつて合図したりする。

吾妻橋の下で、彼は船から上つた。

時刻は夕暮に近い四時だ。賑やかな仲見世通りを拔けて小さな裏露路に入つた。其處には彼の行きつけの小料理屋があつた。

彼の姿を見かけると顔のいゝ色白の内儀が、

「入らつしやいまし。まあお久し振り」

と愛想のいゝお世辭をいふ。

「しばらくだな。前のカフエーは近頃景氣はいゝかな」

「はあ、また經營主が代つたもんですから、女給さんたちもすつかり入れ代りになりましてなあ」

「あゝ、淺草といふところは變化の激しい處だからね。―それぢや娘さんもゐなくなつたわけかね」

「えゝ、さうなんですよ。まあ、あとで、あとで―」

と内儀は會話を手をあげて抑へ氷はつた注文の品々を奥に通しに行つた。

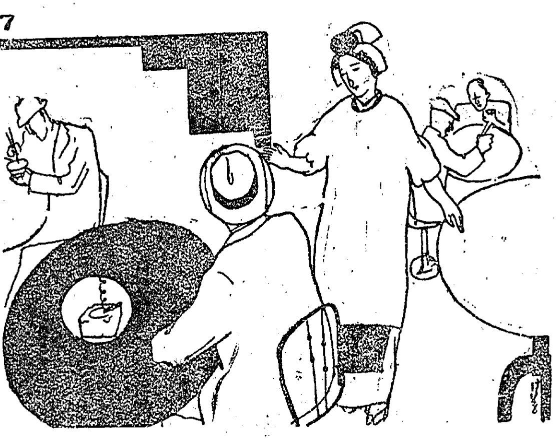
店も茶屋といつた親密な感じだ。

[illegible]の色白の内儀と親しく言葉を交すぐらゐ足しげくはこんで來た。

こゝで出すなめこ汁は客たちが必ず注文する料理の一つであつた。

いま内儀も話の食膳の中心になつた女子といふのは、通りをへだてた向ふ側のカフエ・モモヤヤの女給だつた。

或る晩八木氏は客を連れて此家へ來てゐると、戸外の淋しい往來を通つて來た。



メガネ專門の店
メガネは絶對信用ある當店に先づ御相談下さい……
平市本町二丁目　玉屋

家傳　安流丸
梅毒と　たい毒　吹出物に　はれものは　安流丸　に限る
平市田町　阿部藥舗

齒科口腔外科　レントゲン科
院長　東京齒科醫學士　原　精一
電話三一番　平市土橋通
原齒科醫院

支部昇格大擴張
◇社員拓聘
一、所長結幹部社員　五名
一、外務社員　若干名
一、内勤女事務員　若干名
右至急拓聘ス
御希望の方は毎日午前十時迄履歴書携帶御來談を乞ふ
平市南町一番地
野村生命保險株式會社
平支部

外科一般　レントゲン科
内臓外科　泌尿器科
北川外科
平市新川町二七（電話四六四番）
醫學博士　北川芳夫
◎晝夜診療・入院隨時・血液檢査毎日

温かい飲物　輕い御食事　を始めました。
獨特なコーヒー……10
マルサ　ランチ……35
銃後に誇る質實　第一主義の御奉仕
平・二丁目　マルサ
電374

花柳病科外科
木村外科醫院
平市六丁目橋際　電話三〇九

銘酒　勝山　カツヤマ
全國清酒品評會　優等賞連續入賞
平市田町　發賣元　永山酒店
電二〇七

吉田眼科醫院
平市紺屋町　電話六八番
醫學士　吉田久雄

かまぼこ、[illegible]　[illegible]　製造
お惣菜用、さつま揚、吉原揚……
平市一丁目　電話一四一番
◎配達員至急入用委細面談

喜多流謠曲と仕舞の　お稽古をお奬め致します
入會隨時
喜多流　謠曲　仕舞　白土會
平市田町六九
電話二一七番

開業
一般の　齒科　診療
診療科目　齒槽膿漏科　口腔外科　補綴科　齒列矯正科　小兒齒科
診療時間　午前八時ヨリ　午後九時迄
平市停車場通り　世界館前
鈴木齒科醫院
鈴木一男

美味！　芳醇！
たひら正宗
山崎合名會社　電話一〇番